

修士論文概要

カイロにおける「ゴミの人」の社会経済的役割
- ザッバーリーンのセルフフォーマル化に向けた基礎的研究 -

Socio-economic roles of “Garbage People”:

A basic study toward self-formalization of the Egyptian Zabbaleen

東 真澄

<研究の目的と方法>

近年の経済成長を背景として、人口増加と都市化にともなうゴミの排出量が増加していることは、グローバルな都市環境問題のひとつとなっている。多くの開発途上国においては、ゴミ処理分野へのインフォーマルセクターの関与が確認されている。エジプト・アラブ共和国の首都カイロも、家庭から排出されるゴミの処理を、ゴミ回収・リサイクルによって生計を立てるインフォーマルセクター「ザッバーリーン」(アラビア語で「ゴミの人」の意)に頼ってきた。ザッバーリーンは、主にコプト教徒(エジプト国民の少数派)であり、40年代に上エジプトの農村部からカイロに移住した際にゴミ産業に参入した土地なし農民である。70年もの間、ザッバーリーンが都市部のゴミ処理機能をインフォーマルに担ってきたにもかかわらず、その機能をむしろ排除するような行政施策が強行され、しかも行政によるゴミ処理システムは明らかに非効率であった。かれらの社会的認知を妨げているのは、マイノリティーへの否定的なイメージと、ザッバーリーン産業がその複雑さと地理的条件ゆえに分断されて実態がみえにくいという事実であろう。

本論文は、これまで無視されてきたザッバーリーンの社会経済的役割を明らかにすることによって、エジプト行政のゴミ処理管理政策におけるインフォーマルセクター統合の方向性を見出すための基礎的研究である。ザッバーリーン産業の構造を実態調査し、ゴミの回収・分別・リサイクル・家畜飼育においてどのような要素が「インフォーマル」であるか明示した上で、ザッバーリーン産業の社会で担う役割を、社会的・経済的・環境的側面に分けて検討する。そして、ゴミ処理政策におけるインフォーマルセクターの統合を目指す、ザッバーリーンによるセルフフォーマル化の動向を考察するものである。

本研究は、筆者が2011年4月~2014年3月までにカイロ市に在住していた間に実施した各関係機関における資料収集、聞き取り調査、ザッバーリーン居住区における参与観察と半構造化インタビュー等に基づいている。調査対象地区は、カイロ市に6つあるザッバーリーン居住区の中から最大規模のマンシェットナセル地区を選定した。同地区にて多くの時間を過ごす中で参与観察を繰り返した後、実際に本格的な聞き取り調査を実施したのは2013年9月~2014年3月の期間である。

<論文の構成>

第一章 序論

	第一節	研究の背景と問題の所在
	第二節	研究の目的
	第三節	研究の方法
	第四節	論文の構成
第二章	インフォーマルセクターの概念と政策	
	第一節	インフォーマルセクターの概念をめぐる先行研究の検討
		第一項 インフォーマルセクター論の歴史的背景
		第二項 インフォーマルセクターの定義をめぐる議論
		第三項 インフォーマルセクターの特徴
	第二節	ゴミ管理政策へのインフォーマルセクター統合の諸事例
第三章	エジプト・アラブ共和国の都市化とカイロ市のゴミ処理政策	
	第一節	エジプトの都市化動向
	第二節	カイロ市のゴミ処理政策と民営化
		第一項 カイロ市のゴミ処理政策と課題
		第二項 行政政策によるザッバーリーン産業への影響
第四章	ザッバーリーン産業の構造と社会における役割	
	第一節	ザッバーリーン形成の背景とワヒスとの関係
	第二節	ザッバーリーン居住区の形成と調査地区の概況
		第一項 ザッバーリーン居住区の編成
		第二項 調査地マンシェットナセル地区の居住状況
	第三節	ザッバーリーン産業の構造
		第一項 ゴミ回収業
		第二項 ゴミ分別業
		第三項 リサイクル業
		第四項 家畜飼育業
		第五項 ザッバーリーン産業のインフォーマルな構造
	第四節	ザッバーリーンの社会経済的役割
第五章	ザッバーリーンによるセルフフォーマル化の動向	
	第一節	新ゴミ処理システムの構想
	第二節	NGO Spirit of Youth の設立背景と活動
	第三節	回収業とリサイクル業におけるフォーマル化の現況
	第四節	セルフエンパワメントをプロセスとしたセルフフォーマル化
第六章	結論と今後の課題	
	<論文の概要>	

本論文は、6つの章から構成されている。第一章は序論として、研究の背景と目的、研究の方法、論文の構成を述べた。

第二章では、本研究対象であるザッパーリーンのインフォーマル性を捉えるため、インフォーマルセクターの概念をめぐる先行研究を検討した。インフォーマルセクターに関する多くの事例研究が存在するなかで、その概念が広義的であることやその多様性故に、一義的かつ包括的な定義は困難である。本論では、その特性に留意し、後半の第四章におけるザッパーリーンのインフォーマル性を分析する際に、その枠組みとして有効となる概念が導かれるように努めた。また、開発途上国のゴミ処理問題において、インフォーマルセクターが関与している他国の事例を扱った先行調査は多く存在する。なかには行政政策に包摂されたインフォーマルセクターを扱った事例も少なくない。ゴミ回収者の組織化と行政の歩み寄りがインフォーマルセクター包摂の成功要因であることを他国の事例に学び、第五章のカイロにおける事例考察の視座を得た。

第三章では、エジプト・アラブ共和国の都市化動向を外観した後、カイロ市におけるゴミ処理システムの現状と課題をまとめた。カイロ市におけるザッパーリーン産業発展の背景には、農村部における過剰労働力問題をプッシュ要因とし、都市部における近代的工業の経済発展をプル要因とする都市化のメカニズムが働いている。急激に変容する都市と人口移動は、カイロ市におけるゴミ処理システムを柔軟に運営すべきことを示唆している。そして現在のゴミ処理政策がザッパーリーン産業に与えた影響を述べた。

第四章は、カイロ市における最大規模のザッパーリーン居住区であるマンシェットナセル地区にて実施したフィールドワーク調査をまとめたものである。ザッパーリーンが形成された背景とカイロ市内の居住区の状況を概観した後、ザッパーリーン産業の構造を、ゴミ回収・分別・リサイクル・家畜飼育の部門に分けて分析し、その活動のインフォーマル性をまとめた。前章までの考察を踏まえ、ザッパーリーン産業がエジプト社会で担う役割を社会的・経済的・環境的側面に分けて検討した。

第五章では、近年活発化してきたザッパーリーン自身によるザッパーリーン産業のフォーマル化の動向を取り上げ、ゴミ産業において抑圧された状態のザッパーリーンが、自らの役割に気づき、権利を獲得しようとするセルフエンパワメントのプロセスとして考察した。

第六章は、全章をまとめて結論とし、最後に残された今後の課題について述べた。

ザッパーリーンは、インフォーマルセクターであるがゆえの強靱性と脆弱性を備えている。1986年に行政が実質上のゴミ回収権を意味するライセンスを発行して非所有者を排除したため、ザッパーリーンはゴミという資源へのアクセスを制限された。また2009年の豚インフルエンザ流行を受けて豚一掃処分が実行された際には、ザッパーリーンのゴミ処理機能は壊滅的な影響を受けた。これらはそのインフォーマルセクターとしての脆弱性ゆえに、政策に翻弄された事態といえる。その一方で、ゴミ処理事業が民営化された後、外資民間企業が採用したゴミ回収方法が受け入れられなかったカイロ市民に対応したのはザッパーリーンであった。外資民間企業はトッ

プダウン方式に効率化した回収方式を採用したが、カイロ市民の生活スタイルに合うものではなかった為、返って非効率であったと言わざるを得ない。市民のニーズに即応的なインフォーマルセクターとして、行政の隙間を埋めるように柔軟に働いたザッパーリーンが実質上の回収業を担っていたと言える。経済的インセンティブと社会的ニーズに応じて自然発生し、社会の変化に合わせて自身も変容するインフォーマルセクターであるからこそ、ザッパーリーンが果たし得る機能と役割がある。社会的には、ザッパーリーン産業が都市のゴミ処理機能を果たす一方ザッパーリーン自身に対して生計手段を提供することで、生活保障の機能を果たしている。経済的には、ゴミ関連の多くの雇用機会を生み出し、リサイクルによって新たな資源となる原料を生み出している。環境的には、行政の回収するゴミのリサイクル率が20%に留まっている一方で、ザッパーリーンの手作業による分別が生み出す80~85%という高いリサイクル率は、ゴミ処理にかかる環境負荷を軽減する役割を果たしているのである。

こうしたザッパーリーン産業の社会経済的役割をエジプトの行政や社会に認識させることで、有効なゴミ処理システムが実現する可能性がある。事実、ザッパーリーン自身が自らその役割に気づき、ゴミ回収における権利不在などの抑圧された状態を克服し、自らの社会的立場とザッパーリーン産業をフォーマル化しようという試みが進行中である。筆者は、これを「セルフフォーマル化」と呼ぶ。外部から押し付けられたフォーマル化ではなく、自ら創出する営業形態においてその柔軟な能力を発揮することを追求しているからである。ザッパーリーンにとっては、外資民間ゴミ処理企業に回収者として雇用されることがフォーマル化ではない。ザッパーリーンがゴミ処理分野における社会的権利・市民権を獲得し、それによって自身の生活をコントロールできること、すなわちインフォーマルセクターの強靱性を確保しつつエンパワメントを通じて脆弱性を克服することに、フォーマル化の意義がある。